

人権啓発は 企業にどんな力をもたらすのか



上映時間25分

DVD 本体価格 66,000円(税抜)
[C#3139]

字幕・副音声版付き

解説・チェックシート付き



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<http://www.toei.co.jp/edu/>

人権啓発は企業にどんな力をもたらすのか

企画意図

いま、企業は利潤追求という価値観だけでなく、社会にとって責任ある存在であるという立場が求められています。そのために、企業内で人権啓発の必要性が高まっています。そこで、この作品では、企業に働く人が人権の視点を取り入れて仕事に関わっていくことが企業にどんな力をもたらすかということ、ドラマ形式で事例をとりあげながら考えていきます。

内容

管理本部長の村越が、人事部の中井と経営戦略部の小島を呼んで話をしている。二人には、社員の行動指針を具体化して宣言する準備として、社内の現場を歩き、宣言するために何が大切かを考え、まとめるというミッションが与えられた。二人は、社内掲示板を使って意見や提案を募ることから始めた。

○聴き合う、伝え合う(ハラスメント)

社内のあるグループのミーティングでは、それぞれがお互いのコミュニケーションのありかたについて話し合っていた。中井と小島がミーティングに立ち会う。室長の猪原が、自分がジェンダーについて至らない発言をしたことを話題にのせ、どのように言えば人権が尊重され、ハラスメントを防ぎ、社員のやる気まで引き出すことが出来るかなど、自由に議論をしている。お互いに相手の話を聴き合っている姿を見て、二人は自分の入社時の面接のことなどを思い出しながら考えをすすめていく。



○その人自身が生きる職場のために(障害者・外国人)

小島が、同僚のクロエを中井に紹介する。クロエは、視覚障害者の友人とレストランに行ったときの話をする。レストラン側は配慮したつもりで友人を厨房に近い奥の席に案内したのだが、友人はそのレストランから眺望できる素晴らしい夜景を楽しみにしており、同伴したクロエからどんな夜景なのか聞いたりして、雰囲気を楽しむつもりだったという。また、フランス人であるクロエに英語のメニューを渡すということもあった。配慮が型どおりにあればいいということではなく、相手のニーズに合わせる事が大切だということを、中井と小島は学んでいく。



○あらゆる性の活躍のために(LGBT)

中井と小島が、トランスジェンダーの社員の岡田に取材している。岡田は、男性として生まれたが心と体の違和感があり、女性として会社の化粧品販売の店舗で接客をしている。中井と小島は、トランスジェンダーである岡田の自然な感性が営業に活着ていることを実感する。岡田は、アライ(LGBTを理解し支援する人々)の存在の大切さについても触れる。



○多様な働き方のために(ワーク・ライフ・バランス)

育児時短で勤務している夏目が、時短勤務者の仕事上の工夫をまとめて中井と小島に報告している。多様な働き方を実現するためには、お互いに認め合い、伝え合い、配慮しあうことが必要だと中井と小島は気づいていく。



○フェアな会社であるために

中井と小島が村越本部長に報告している。小島は、一人ひとりがお互いのありようをよく聴きあって、フェアなコミュニケーションをすることが宣言に向けて大切だと発言。中井は、公正な採用選考を進めていく立場から、企業の社会的責任について語る。



プロデューサー 中鉢裕幸
新井英夫
脚本・監督 前田和男
撮影 松丸武彦
照明 城所美和
音楽 増田英己

制作協力 株式会社ターゲット
企画・制作 東映株式会社 教育映像部